夏期特別展

相模川流域の弥生時代

期間　昭和６３年７月２０日～８月３０日
会場　平塚市博物館　特別展示室

○夏期特別展「相模川流域の弥生時代」

期間　昭和６３年７月２０日～８月３０日
会場　平塚市博物館　特別展示室
内容　私達の生活基盤となった弥生時代に視点を置き、相模川流域で展開された弥生時代の様相について紹介します。

○特別展示講演会「相模川流域の弥生時代」

日時　８月７日（日）午後２時から
会場　博物館講堂
講師　岡本孝之氏
（慶応義塾藤沢校地埋蔵文化財調査室長）

○史跡見学会

日時　８月５日（金）午後２時から
場所　三殿台考古館
講師　今井康博氏（三殿台考古館学芸員）
定員　３０名
申し込み　７月２０日までに、氏名・住所・年齢・電話番号明記の上往復葉書で。（明石）

ミニスポット

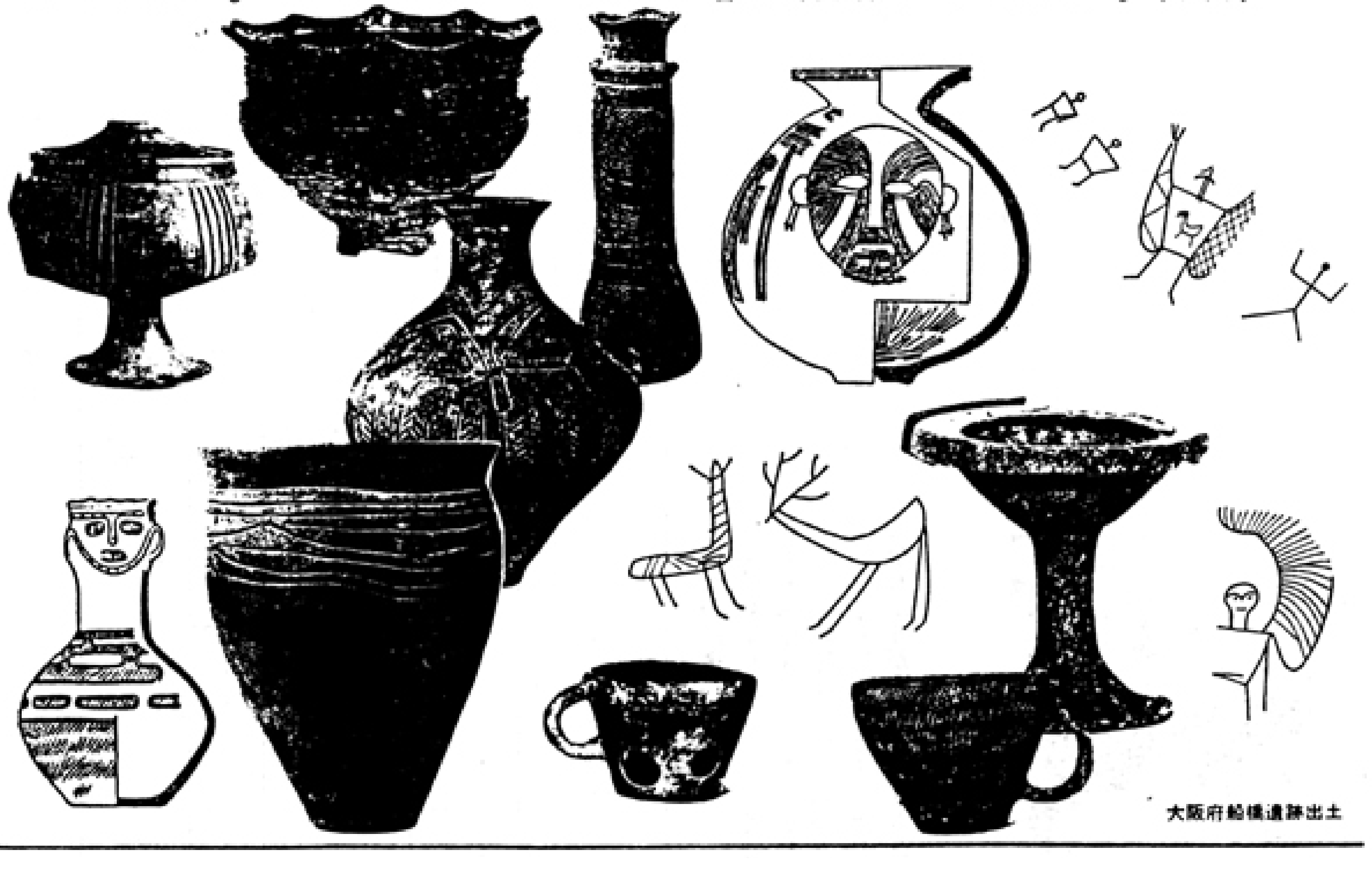
−弥生土器は語る −夏期特別展より−

野山に狩り果実を採った暮し（縄文期１万年間）から、田を拓き稲を植え育てる技を知った弥生期に移ると、燃え上がる炎のような縄文土器に替って、おっとりと優しい土器が現れた。言ってみれば、弥生土器は、稲作農耕を主とする食糧生産の段階に入ったことを証す器と言ってよい。その文化圏は九州から本州北端にまで広がった（北海道を除く）のである。主な器は壷だが、他にかめ・鉢・高杯がつくられ、壷やかめには蓋付きのものもある。用途に従って大小（人が入れるのから手の平にのるのまで）あり、把手付きのカップや水差（弥生独特のもの）は形もなかなかモダンである。焼成後に彩色した赤彩文を始め、鉢や高杯・杓子には漆仕上げもあるそうだ。弥生人は絵も描いた。最も多いのは鹿で、鹿と建物を組合せたり、手をあげた人物画もある。　機会があったら探してみてください 。

磨製石器や石庖丁の出土もこの期なら、この時代には木工用工具がととのったので、刳物による木製容器が沢山作られた。土器の形を木器に写したもの、逆に木器から土器に意匠を取ったものもある由。非常に大きなものや手荒に使う器なら、なるほど木器の方が作るにも使うにも容易である。土器の形や文様（線描きによる幾何学文、櫛描きによる流水文や簾状文）は、地方地域で特色があるが、似通ったものもずい分ある。女の通婚圏の現れとする説があるところをみると、原始の頃、土器のつくり手は女であったのかも知れない。

今から２３００〜２４００年前に始まった弥生時代は、５００〜６００年栄えて次の古墳時代に席をゆずった。土器もここから土師器になる。

さて、ここで問題です。現在ただいまの私達の暮しは、はるかな後代に何を残すでしょうか。お答えを博物館にお寄せください。（和田）



大阪府船橋遺跡出土